

Save The Tropical Forests



森の通信

2012.12.25



▲ 1月のエコツアーで ジュルンブン付近の森が アブラマシ・プランテーション会社  
によって破壊されているのが発見された。

- people 26 猪俣栄一さん ..... 3P
- 合法材議決文書の48回 ITTO理事会  
「密輸王ダイブ 首相登場」 ..... 12P
- タンジュンアプティン国立公園での  
アブラマシ・プランテーション問題 ..... 4P
- 11/14 違法伐採セミナー Report ..... 14P
- 7-9月 2012.8月エコツアー感想 ..... 6P
- 世界の森林ニュース ..... 16P
- やれば出来る! 違法伐採キャンペーン(終)  
..... 9P
- 寄稿「追悼・猪俣栄一さん」 ..... 17P
- 会計より ..... 19P

来年2月でウータンも25年を迎える。1年目は「ウータン」をPRするため、年間6号発行。それで今号で107号となる。編集長のお陰。25年目を迎え、ウータンの活動の概要を今号で記載する。

1987年マレーシア・サラワク州での先住民が森林伐採に抗議し続け、同年10月、サラワク先住民が大阪にも秘かにやって来て報告会を開き、私を含め4人が軸となり1988年2月にウータン設立。最初の2年は、東南アジアの森林や日本の森で起きている問題についての講演会が主となる。

1990年にサラワク州で先住民への弾圧が止まらず、来日のマレーシアNGOsと木材輸入の商社に熱帯材削減を申し入れる。だが知名度もなく、全く相手にされなかった。熱帯の原生林破壊は拡大するばかりで、JATAN(熱帯林行動ネットワーク)K氏と相談し、「大量使用するコンパネ材の使用削減―【自治体へのキャンペーン】により削減要請してゆくほうが上手く進むのではないかと舵を変えた。

初めは蓋が開かず、居眠りする担当者も混じる大阪市相手に、姉妹都市サンフランシスコ市長から大阪市長に「熱帯材削減計画実施有無」の要望書をNGOのRANに依頼し、【キャンペーン】は成功となる。大阪市の議員が動かないので、私たちは《外圧》として姉妹都市の首長に依頼する作戦を取った。だが大阪市は最後まで私たちの行動を見抜けなかったらしい。大阪府の場合は逆で、多くの議員の方が協力してくれ、【熱帯材使用削減キャンペーン】が成功した。

その後97年まで大阪府下自治体、関西の自治体へ「熱帯材使用削減」の依頼。【熱帯材No! 選挙板キャンペーン】も開始し、2000年前に全国展開し、これも成功に。だがロシアの森林破壊となりだした。合板企業がチリだけでなくロシア材を合板材に使用し始めたから。大きな読み間違えだ。当然、世界の森林破壊は止まらない。私たちはどうすれば世界の森が守れるか、と悩んでいた。

1998年、グリーンピースがブレア首相に「違法材停止を要望」してから、世界の流れが変わった。「これだ！」2000年にラミン調査会を立ち上げ、2003年から同会と共同して【違法ラミン停止キャンペーン】を進めた。秘かな調査、周到な情報収集、現地確認、そして停止へ何度も「繰り返しの停止依頼」だ。問題材と気づきだした素晴らしい企業もいたが、執拗に使用する企業には執拗に停止依頼を、。

2007年にTelapak等と【違法ラミン停止宣言】を表明。「あと2,3年で世界から違法ラミン取引はほぼ困難」とPR。2008年末に750社がラミンを停止。環境を配慮する企業も現れたが、それから進みが遅い。2010年からやっと世界の森林は、破壊より保全・植林が増えだした。明るい傾向だが、そのかわり木材マフィアの一部がアブラヤシオーナーとなり、森林破壊を続けている。まだ道は遠いのか? (西岡)

\*\*\* 107号【ウータン活動報告】\*\*\* 25周年へ \*\*

- 2012・9・20-21 石崎、タンジュン・プティン公園アブラヤシ問題、Rio+20 事後対応で東京へ  
 10・11-13 世界銀行・IMF 総会に[タンジュン・プティン公園等アブラヤシ問題]チラシ配布/西岡、石崎  
 10・12 生物多様性条約へ同内容[アブラヤシ開発資金停止へ]チラシ配布依頼へ  
 10・15 『通信ウータン106号』発行  
 10・22 RSPO(持続可能なアブラヤシ開発円卓会議)へ《タンジュン・プティン公園の違法性のアブラヤシ開発停止》へ要望書の送付  
 10・24 堺市・泉北高校で講演/石崎、高阪  
 11・7-9 ITTO(国際熱帯木材機関)理事会参加/西岡、石崎  
 11・14 合法材セミナー・大阪集會へ参加、\*春日、米澤、笠原、西岡、石崎

# People(26) save! the World's Forests

【熱帯材使用削減キャンペーン】や【違法伐採・違法貿易キャンペーン】に  
アドバイスしてくれたウータンの師匠・猪俣栄一氏・おおきに! 成仏して!



(左・1993年ウータン総会で叱咤激励の猪俣さん／右・晩年の猪俣さん)撮影・不明

「あんたらなあ、もうちょっと勉強せえよ」とのっけから発言する猪俣さん。【熱帯材使用削減キャンペーン】の取組みに「もっとウータンのメンバーは、熱帯材がどのように、どこで、どんな風に使われているのかを調べなあかん。足で歩き細かなデータを確認すること。」こう言われたら、みんなは[ぐ]の根も出ない。【違法ラミン・キャンペーン】もそうだった。電話で色々教えてくれるが、余り事細かで、電話料金がかって困った。編集長の永田さんも「おっさんと話していたら、なんぼ物知りでも話し長い長い。耳[タコ]出来そうや。」

徳島の剣山のスーパー林道の建設に反対する。那珂川上流のダム建設に反対する。橋火力発電所建設に反対する。と思たら「今、野草の会のメンバーと一緒に」と話す師匠。大昔には、スキーで国際大会にも出場した師匠。

今年突然亡くなられ、永田さん、大平さんと墓参り。「おっさんの好物、買えへんか」と私が言うと「猪俣さん、好き嫌いが激しい。食べるものないで。」「インドネシアへ長いこと行ってたが、おっさん、焼き飯しか食べられん」と二人。私は「男にえらい文句言うたが、女性に優しいて。ね、奥さん」と墓参りの珍道中。あんまり悪口言うと、閻魔界から怒るかも。

いろいろと教えて頂きました。「正義感」の授業を受けました。授業料は払ってませんが、有難うございました。だけど魔界でみんなに「これ××」と説教せんといてや。(西岡)

## タンジュンプティン国立公園周辺でのアブラヤシプランテーション開発計画問題

石崎 雄一郎



2012年、ウータンも長年支援をしてきたタンジュンプティン国立公園周辺エリアでアブラヤシプランテーション開発を巡ってのめまぐるしい動きがありました。入ってくる情報は刻一刻と変わり、時として驚くべきものであり、今もなおウータン・FNPF・村人・プランテーション企業・そしてそこに棲む生き物たちにとって大きなこの問題に収集はついておらず、事態は長期戦の様相を呈しています。

1月のエコツアーですでにその兆候は見られました。FNPFのスタッフが1ヘクタール(ha)ずつ土地を買い取り、アブラヤシプランテーションと森林の間でアグロフォレストリーを実践してきたジュルンブンをツアーメンバーが訪れた時、かつて見慣れた森が無くなり無残に伐採された跡を発見したのです(表紙写真参照)。以前より、バスキを中心にタンジュンハラパン村の村人が結束して、境界線を越えて入ってこようとするプランテーション会社に対してのデモ活動を活発化させてきたと聞いていたので、いよいよこのような事態になったかとショックを受けました。

事態が急展開しはじめたのは5月です。前半に僕がインドネシアへ行った際、バスキと共にボゴールのウェットランド・インターナショナル・インドネシアのオフィスを訪れました。それはウェットランドの事務局長ニョマン氏より、ジュルンブンをはじめとするタンジュンプティン地区での村人による森林再生プロジェクトをバスキのコーディネートで行ってほしいという依頼を受けてでした。バスキがプロジェクトのサインをした半月後に事態は急変しました。「ジュルンブンを含む国立公園周辺地区でBWプランテーション社の子会社のBLP社がさらに大規模なプランテーションを拡大させる」との情報が持ち上がり、FNPF事務局長のバユ氏がウェットランドにプロジェクトのキャンセルを伝えたというのです。

そして、7月には村にとっても大きな事件が起こりました。村長や役人を含めた7人がプランテーション会社に招かれジャカルタへ行き、帰ってきた時には村の土地をプランテーション会社に売ることで合意したというのです。その話を伝えてくれたのは8月におこなったエコツアーの準備で村へ入っていた細貝さんです。彼女の報告によれば、村の7割が土地を売ることに賛成している状況だとのこと。その中にはかつての苗作りメンバーも含まれていました。エコツーリズムグループのバナ氏や幾人かの村人、FNPFのメンバーはもちろん反対派であり、エコツアーでも一緒に植林等に同行してくれました。

エコツアー中も僕や細貝さん、バスキに加え、ウータンメンバーの浅田さんも夜の遅くまでこの問題について話し合いました。賛成派には村の小学校の先生も含まれており、事態は深刻でした。バスキの入手した会社の開発計画図によれば、4箇所の開発予定地を合計した大きさは実に15,000ha以上(ちなみに大阪の環状線内が約3400ha)。そして、そこにはかつて野生のオランウータンを見かけた森や、ウータンが植林をしてきた場所も含まれています。

帰国後、ウータンではさっそく話し合いを持ちました。この新規開発には、①インドネシアとノルウェー政府による『3M以上の泥炭湿地(ピートランド)の新規開発を一定期間停止する』モラトリアム合意に反する、②国立公園内であれば一切の森林伐採は中央政府により禁止されている、という二点に置いて違法である可能性があります。そこでトグ氏をはじめとするインドネシアのNGOメンバーともやり取

りをして、国際会議などの場でアピールすることを決めました。特に、開発をしたい PT.BGA、PT.BLP は2社ともに RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)のメンバーのグループ企業であることがわかり、このような会社が違法性のある開発をすれば当然非難の対象となるはずと言えます。

国際会議には行きたいものの現地のプロジェクトで手一杯であるというバスキの声を伝えるべく、日本にいるウータンができることとして国際世論に訴えることが第一であると考えた私たちは、西岡さんの作成した「世銀・IMF は森林減少、泥炭湿地破壊、気候変動につながる開発プロジェクトに融資しないで!」というメッセージチラシを手に、10月上旬に東京で開催された『世銀・IMF 総会』を皮切りに、『生物多様性条約締約国会議(COP11)』、『RSPO』、『ITTO』、『気候変動枠組条約締約国会議(COP18)』などでばらまき、ロビー活動を行いました。パームオイルの問題は多くの人が認識していて、特に ITTO では各国政府の代表や国際機関のメンバー幾人もが僕たちの声に耳を傾けてくれました。

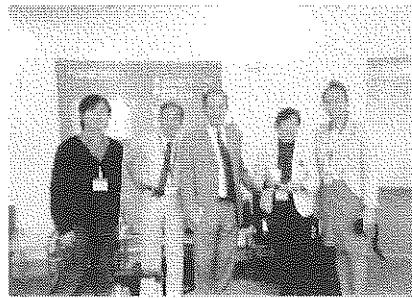
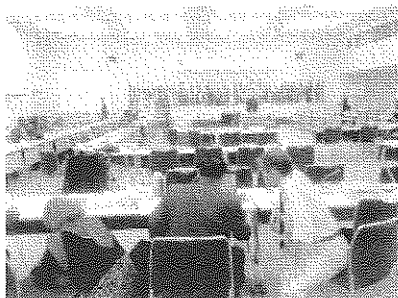
ウータンでは引き続き、『RSPO』が機能として持つ「苦情処理システム」に対し、この問題を提起していきます。必要があれば、インドネシア政府やウータンと同じく開発予定地に植林をしているボーイング社も巻き込みアピールしていくことを検討しています。そのために「政府の地図」や「会社の開発予定図」、「現地の調査図」、あるいは「衛星写真」の利用可能性も視野にできるだけ綿密な調査を行っているところです。この問題に手助けいただけそうな方がいればぜひお願いします。

しかし、ウータンではゆくゆくは現地の村人に対して、じっくりとこの問題と向き合って考える機会をもってもらいたいと思っています。ウータンメンバーの中には、たとえ村人がプランテーションを選んだとしても、できるだけ農薬の被害が出ない方法で働く方法を一緒に考えてあげたらどうだろう、という意見もあるくらいです。「森を守りたい」という僕たちの声と「発展したい」という声(が彼らにあるならば)、それらは持続可能な形で叶えていかなくてはならないでしょう。とても難しく重要な問題と言えます。

11月にバスキからさらに衝撃的な内容が送られてきました。「開発の最有力候補であったBWプランテーションは政府の許可がおりず、BGAが開発の座を狙っている。幾人かの村人は汚職事件に巻き込まれている」というのです。ジュルンブンでは FNPF が新たな進展を見せており、バスキの手で早くも復活した新しい苗作りグループは、アグロフォレストリーの発展に精力的に取り組んでいるそうです。ウータンの支援で建てられた小屋をインフォメーションルームとして使いたいの、新たな支援を早急にと要請されています。

この問題で心強いのは、現地の NGO『Sawit Watch』や『RAN』の動きです。彼らはタンジュンブティン現地も訪れ、バスキ等と独自に調査した内容をもとにキャンペーンをしたいと考えているようです。こちらからの協力要請にも快く受け入れてくれて、情報共有等をしてきています。現地のインドネシア NGO と日本など国際的な NGO の両面からのアプローチはきっと有効になることでしょう。

テラパックのヤヤット氏は西岡さんの国際キャンペーン提案に対し、「Yes ぜひ共有し、サポートしたい」との返事をくれました。今後もこの問題に注目していただければと思います。



右・左 ITTO 会議場にてアピール。

真ん中 世銀・IMF 総会、アフリカの NGO と。

## ウータン2012年8月エコツアー感想

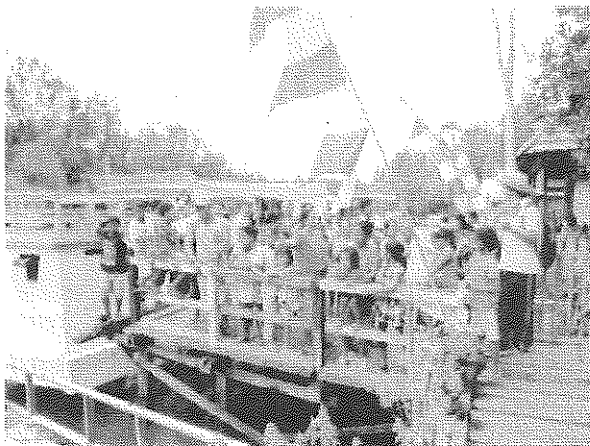
### 『リアリティへの契機』

木村 江美

今回、エコツアーで過ごした1週間は想像以上に濃く楽しい時間でした。また、一見無縁とも思えるインドネシアの村と私達の生活との深いつながりや、村での生活を通じて本当の豊かさ、生きるために必要なモノは何かということについて改めて考える貴重な機会となりました。ツアーで訪れたパームプランテーションや火災や開発により草原と化した森は、元の姿が想像できない程インパクトのあるものでしたが、ビジョンや熱い想いをもって取り組まれている現地 NGO スタッフや、それに応え苗作りに取り組む村人、そして環境教育で学んだ木の名前を熱心に教えてくれる村の子供たちの姿は、まさに森を始めとしたその土地の自然を次世代につなぐ“希望”だと感じました。

また、それと同時に今ある様々な問題は簡単に解決できる状況ではないことも知り、同じ時を共に生きる地球の一員として、また日本の消費者としてできることは何か、モノを買うという日常生活の行動をはじめ意識して見直さなければいけないことが沢山あるなと思いました。そして、今回ツアーで一番不安だったことは言葉もわからない中でのホームステイでしたが、村の方々はとても優しく、その気遣いや思いやりに、たとえ国や文化が違ってても伝わる気持ちや想いはあるということを感じることができ、僅かな時間でもこのような交流ができたことを、とても嬉しく思いました。また、村での生活は電気、水道といったライフラインも十分に整備されてはいませんが、明るい月の光、蛙や鶏など他の生き物の存在を感じながらの日々は、とても新鮮で普段の便利な生活の中で、忘れがちになっていることや不要なものが、いかに多いかということにも改めて気付かされました。

今回、現地で様々な体験させて頂いたことは、これまでも情報としては知りながらどこか距離のあった問題・現状を、よりリアリティを持って自分ごととして捉えられる大きな契機となりました。貴重な経験をさせてくださったウータン始め現地 NGO スタッフ、村人の皆さまに感謝申し上げるとともに、今後は個人また組織として、現状を伝えることをはじめ何ができるのかということをもより深く考え、行動して行きたいと思えます。本当にありがとうございました。



村を離れる最後の日、午後1時に港に集合の予定でした。早めの12時ちょっと過ぎに港に行ったら、川向うの正面の樹の上にオランウータンがいました。前日の早朝にオランウータンが現れたと聞いたので、その日の早朝、4.5人で待っていましたが会うことはできませんでした。それが最後の最後に、まるでバイバイと挨拶をしに来てくれたかのように現れてくれました。りっぱなオスでした。保護施設のキャンプリキーで餌付けをされたたくさんのオランウータンを見ましたが、これは全く別の野生のオランウータンです。

ツアー中、森の破壊がどんどん進んでいることを知り、それは絶望的にも感じました。しかし、森を守るため、森を再生するために一生懸命活動されている人達に出会いました。ツアーで一番嬉しかったこと、感動したことは人との出会いです。

森を守るために熱い思いで活動している人達、ホームステイ先でお世話になった御家族、村の子どもたちと手を繋いで遊んだこと、ツアーの人達との出会い、ウータンの皆さんとの出会い。

普通の観光ツアーでは経験できなかったことばかりだと思います。

幸せな時間をありがとうございました。

“さよなら”と顔を出してくれたオランウータンがこれからも静かに森の中で暮らしていけますよう、そして森を守る活動がうまくいくことを心から願っています。



テリマカシ、ボルネオ・エコツアー

『感想…です。』

玄番 雛

ウータンのエコツアーすっごく楽しかったです。

なにが楽しかったのかと言うと……・タンジュンハラパン村での4泊5日の日々です。

村人の雰囲気＝優しさが一緒だったり、地域がかかえる問題なんかも似てたりで、

どことなく木頭に似ている所もありました。まあ木頭の場合は「杉」なんですけどね。

タンジュンハラパン村は、パット見た感じ、若い人がけっこういることにびっくりしました。

実際は、わかりませんが……。



学校でしぶしぶ地理の教科書を開けて興味もないのに勉強し  
いつのまにか終わるみたいなそんな勉強の仕方でした。(前ま  
では)もうこんな風にならずに、これからは興味があったら、徹  
底的に調べて調べて調べ尽くします。[なんか文章的におかし  
いけど…。]

ブログや本なんかに掲載していない事を自分のなかで、感しまし  
た。行けてよかったです。

いっしーさんありがとうございました。お世話になりました。  
そして、また行きたいです。という訳で、お世話になります。  
またいつかウータンのボランティアスタッフとして行ける日  
がくればなーと思っています。学校の意味のないつまらない宿  
題をするよりいろんな意味で、いい経験をしました。まあ今  
は先生らに急かされつつもいやいややってます、今頃……。

長々と失礼しました。多少の間違い、ご了承下さい。

玄番 難でした。

#### 『押し寄せるプランテーション開発』

浅田 聡

僕は第1回目のツアーに引き続き、今回の第2回ツ  
アーにも参加をしました。前回のツアーでは、主  
にボルネオの現状を知ることが大きな目的でし  
たが、今回はリアルタイムで進行しているプラン  
テーション開発の現実を目の当たりにしてしまうこ  
とになってしまいました。ツアーの出発前は、前  
回のツアーで記憶に残っていたタンジュン・ハラ  
パン村が頭の中にあっただのですが、いざ現地に到  
着してみると少し状況が変わっていました。それ  
は、村に押し寄せるプランテーションの開発と村



人の微妙な心境の変化が感じられたからでした。前回のツアーで訪れたアグロフォレストリー  
の土地(ジュルンブン)では、周囲の森林がプランテーション開発のために伐採されてしまい、  
アグロフォレストリーがまるで陸の孤島のような状況となってしまっていました。「あっ、何  
もない!」。以前の記憶と現実の不一致に、思わず声が出てしまいました。また、ハラパン村  
の近辺では、新たなプランテーション開発の話が持ち上がり、村人の心に大きな変化をもた  
らしているように感じられました。こうした状況に困惑した様子のFNPF(ローカルNGO)  
を見てみると、「何とかしなければならぬ!」、「ウータンとして是非、サポートをしなければ!  
!」という強い思いを抱かざるを得ませんでした。帰国した現在、ボルネオの環境保全に真  
剣に取り組まなければならないという強い決意を感じています。



## 《やれば出来る! 違法ラミンキャンペーン/終》-ラミン発見後、行動へ

- 追悼/2012年没・Telapakの友人ハブソロ氏、師匠・猪俣氏へ /Campaign 大改定版- 西岡良夫

### 【違法材問題を取り組むように日本政府へ直訴の2000年春】

ウータンは、1998年まで違法伐採問題に深く関心に向けていなかった。世界の原生林破壊が今も進み、マレーシア・サラワク州などではほとんど原生林を破壊し、その後にアブラヤシ開発を進めているから。原生林を破壊し、その後に伐採を繰り返さないとある程度森林は戻るが、アブラヤシ開発なら根こそぎ破壊してしまう。ブラジルも牧場開発で森林が復元しないと同様に、ウータンは原生林保全を目的にしていた。

世界の森林破壊は Stop していない。例えば、ITTO(国際熱帯木材機関)の勧告を受けたサラワク州は、商業伐採を 920 万 m<sup>3</sup> 以下にすると 1992 年に決めながら今もそれを守らず、原生林破壊を続けている。ITTO や国連森林フォーラムが「持続可能な森林経営をするために、木材の認証制度を広げて、評価基準を遵守させるのが筋道」としてきたが、一向に原生林破壊や森林伐採が減る傾向でなかった。

何が森林保全への突破口かを私たちも考えあぐねていた。1998年G8バーミンガム・サミットで、英国ブレア首相に Green Peace は「違法伐採が鍵」と申し出て、バーミンガム・サミットで「違法伐採対策」が国際的に初めて論議される。私たち・ウータンも 1999年総会で「違法伐採対策を検討しよう」となる。

2000年4月、滋賀のG8環境大臣会合で、私は当時の谷津農林水産大臣にウータンとして訴えた。

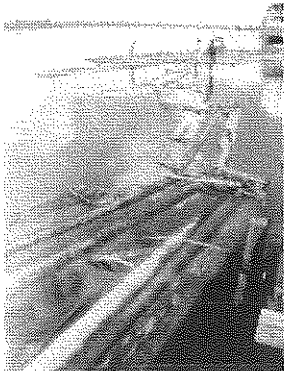
「大臣、これからは違法伐採問題が森林問題では焦点となってくると思います。今まで ITTO や国連、FAO などが持続可能な森林経営の推進が熱帯林の保全に繋がると推進してきましたが、最近の違法伐採のデータを見れば、保護地区、国立公園で違法な伐採がされており、これを止めるほうが容易と思われる。当然、インドネシアやマレーシアから違法な木材が日本に輸入されている可能性が高く、放置すれば夏の G8 沖縄・サミットで海外の NGOs が問題提起し、日本の対応を非難するでしょう。是非、違法伐採と違法貿易の問題を日本政府として検討してください」と。

谷津大臣は、「分かった。違法材対策につき、日本としても検討するよう事務方に伝える」と。

2000年10月、全国熱帯林保護活動者会議・京都の後、10月22日に、インドネシアの NGO・Telapak のハブソロ、レイ氏を迎えて AM ネットらと共同の大阪集会を開く。当日の基調報告はハブソロ氏だ。

「インドネシアはスハルト政権の後期から、違法伐採がされるようになった。1997年スハルト政権が瓦解したら、混乱が続く中央政府が機能せず、今度は地方政府が伐採権を発券出来るようになり、違法伐採は歯止めを効かない状態になった。私たち Telapak は英国の EIA と 3 年前から共同調査を始めた。

中カリマンタンの有名なタンジュン・プティン国立公園では、1998年からオランウータンの密猟、違法伐採の拡大が一層ひどくなった。今年の我々の調査では、国立公園の中央部まで違法伐採がされている。ラミン、メランティなどの木材を港町クマイから運び出している。この写真がそうだ！



左)1999年クマイ港/右)違法伐採・密輸



中カリマンタンのセバングウ国立公園、ラマンドウ保護区でも違法伐採がされ、多くの動植物が危機に瀕している。生態系を大きく破壊する違法伐採は、地方政府が軍や警察と木材業者と癒着している。スマトラ島でもグヌン・ルサー国立公園など違法伐採がされ、タンジュン・プティン国立公園と同様に、オランウータンの生息地が激減している。違法伐採は国家的な損失に繋がる。木材マフィアが絡んで、彼らはただ同然のように儲けている。このままでは大変な事態になる。我々は彼らと今抗争しているんだ。

日本へもこれらの違法材であるラミンなどが輸入されている可能性があり、違法伐採停止へ向け、力を貸してほしい。絶対ラミンは日本に運ばれているはずだ。皆さん、チェックしてほしい。」

### 【師匠・猪俣さんに聞き、Telapak と違法ラミン材を大阪の港で発見！】

ウータンではラミン材について詳しい状況を知らなかった。ハブソロ氏が明日、港を見に行きたいということで、ハブソロ氏と同じく講演をした私は、師匠の猪俣さんに夜半にラミンについて詳細を聞く。

「西岡君、不勉強や。もっと樹種を知らなあかん。でないと、違法伐採問題進められへんで。

ラミンは以前 1960 年頃、インドネシアのカリマンタン、サラワクの沼地・泥炭湿地にいっぱいあった木だ。業者はあんな木は合板にならんし、放置し大雨になったら腐てきよる。製材に加工しても粉が一杯飛ぶ。1960 年代、インドネシアで低地の森林開発のあと、その近くの泥炭湿地の開発として森林を開発し、ラミンを伐採するのを始めた。日本は戦後、木材の大市場でも合板が中心で、ラミンには見向きもなかった。

しかし、高度経済成長以降、1970 年後半から白い加工材の需要で、ラミンは急激に使われるようになった。コタツの足棒、大半のベビーベッド、仏壇、写真フレーム、それからモップ等だ。欧米ではピリヤードの棒などに利用されている。大阪南港の平林にはラミンは来ていないと思う」と、猪俣さんが教えてくれた。

寒い北風の日だった。私はラミン輸入港の選定を迷っていた。猪俣さんに言われた大阪南港をはずし、堺泉北港(泉大津)か、岸和田港かどちらに行くかを迷ったが、木材工場や倉庫群がある岸和田港で見られる可能性があると思い、Telapak・ハブソロ氏らと行く。

H 倉庫を訪れた。インドネシアからの木材があると、周辺の企業の人が言うから。「インドネシアの友人がわが国の木材を扱っていて、見たい」というので、見学可能かを聞く。OK をもらい、H 倉庫の中へ行く。

「あの白い木材はラミンだろう」とハブソロ氏。「たぶんそうだ」と相棒のレイ氏。

私たちはその製材品の近くまで行き、確認。ええーっ。シンガポールからのラミンだった。あの国にはラミンがないのに、。小声で「Illegal Ramin!(違法ラミン)」とハブソロ氏が言う。違う場所に置かれたラミン丸棒は、【Made in Indonesia】と書かれていた。インドネシアからも輸入されていた。私は従業員に聞いた。

「この白い木材は何という名前ですか」と、とぼけて質問。

彼は「確かラミンと言っていたと思う。」

私は続けて聞いた。「どこの企業が扱っているのですか。彼らも知りたいというものですから。」

従業員は「確か貴志川町の企業がここの 8 割を取引すると聞いてますが、企業名は忘れまして」と。

シンガポールからも来ている違法らしいラミンの扱う企業を探そうと、こそっと言うハブソロ氏。H 倉庫を出て、私の知人が貴志川町にいたので、彼女に電話番号を調べてもらう。その企業に私は直接電話した。

「もしもし、N 木材ですか。インドネシアの友人が来て、たまたまインドネシア材を見たんです。貴社ではインドネシア材を扱っていますか」と私。

「ようさん(大量に)扱っとるよ。月に 1 回とインドネシアには木材取引によく行くよ。マレーシア、シンガポールも木材会社多いからよく行く」と、電話対応は代表の N 沢さんだった。

「貴社でラミンを扱っていますか」とずばり聞く。

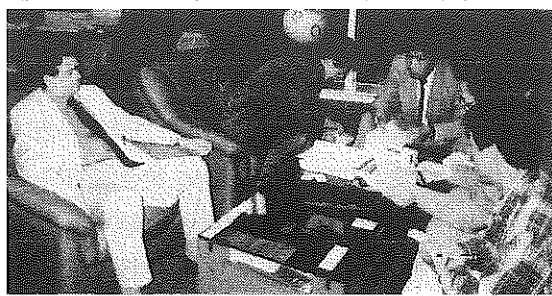
「扱うよ。扱って悪いのか。インドネシア政府からの許可も得て、木材を取引している」と N 木材社長。

「インドネシアの友人は最近国立公園等で違法伐採のラミンが日本に多数輸入されている」と私は言う。

「わしらの企業はちゃんとしている。あんたやあんたのインドネシアの友人に言われる筋がない。正式な許可でわしらは木材取引している。何でいのかんや」と、怒ったようで N 木材の社長が電話を切る。

ハブソロ氏は「やった! 帰国して仲間に報告できる。ウータンも違法材キャンペーンを進めてほしい」と。

2001年「ラミン調査会」が動き出し、箒・モップを扱う良心的なM商店から「ラミン材の転換」が始まった。



左)2000年10月違法ラミン材を岸和田で発見/右)2000年11月、ITTO事務局長へ違法材停止申入れ

### 【「このままではITTOが死ぬ! すぐ違法材対策を進めよ」とITTOへ違法材停止の申入れ】

2000年11月、G8 滋賀サミット・環境相会合に次ぎ、違法ラミン材を見たので何らかの行動を計画した。というのは今までITTOで違法材につきほとんど論議されず、違法材に関する決議も調査もされていない。

私は会議最終日に、突然横断幕を掲げようと思った。全国の熱帯林保護の有志に連絡し、「ITTO がこれで見向きもしないなら、お終いだ。ぜひ横浜のITTO会場前へ午後1時に集合してもらえないか」と。

JATAN、JATAN 名古屋、JATAN 静岡、サラワク・キャンペーンのメンバーや東京のウータンのメンバーが10名来てくれた。3日かかりで作成した横断幕は「違法伐採停止は森林保全に繋がる! このままではITTOは死ぬ! ITTOは違法伐採対策を取れ」と5mのもの。ITTO中にAMネットの川上さんが最後の議決まで確認してくれるので、私は急いでホテルに戻り、横断幕を持参し、集まってくれた仲間と午後3時前から横断幕を広げた。突然のことで、休憩になったITTO理事会の人々が上の階から眺めている。30分経ったろうか、事務局のステーブ氏が来て、「ITTO事務局長と会えるようにするから、収めてほしい」と。

ITTO理事会が終わり、事務局が休息後、面談がOKと連絡が入る。「本当?」と、皆は半信半疑だ。国際NGOのメンバーも参加し、ITTO事務局長と違法材について1時間話し合えることになった。

「今までITTOはなぜ違法材問題を話し合ったり、論議しなかったか」と国際NGOが指摘する。

マヌエル ITTO事務局長は「持続可能な森林経営の実践には、認証林をどうするのが大事だ。現状をITTOでは確認しなければならぬのだ。持続可能な森林経営の概念が浸透してきた」と。

「それで森林減少はなくなったのですか。」「ITTOとして違法伐採の対策として調査し、対策を講じるべきではないですか」とJATANのKさんとJATAN名古屋のメンバーが言う。

「各国が違法材問題につき、発言しないし、取り上げない。私が住むブラジルからもない」と事務局長。

「現にこのようにラミンも、ラミンが生えていないシンガポールから日本に来ている。これは違法ですよ。インドネシアのNGOに連絡したら、インドネシアで違法伐採されたもので、違法材停止が不可欠」と私。

「違法材を取り締まるべきでないか、ITTOも調査すべき」とAMネットの川上さん。

事務局長は言葉を濁し、やっとな発言。「今ITTO理事会で違法材関連の決議はなしで、私個人ではすべて責任が取れない。だから、違法材問題についてはまず事務局で相談し、調査も含めて検討する。」

2000年は大きな前進だった。G8で違法材を決議し、ITTOも2002年から調査しだし、同年に違法材の決議も採択。今2012年、ITTOではワシントン条約の強化、生物多様性保全の強化、開発途上国の森林破壊・劣化に関する事項のREDD+問題まで討議し、違法材排除が当たり前ようになった。ここまで進みだしたのは熱帯材保全の意思を伝えた仲間、違法伐採・違法取引を指摘し続けたTelapakのハブソロ、ヤヤット、アルビといった仲間と猪俣氏等の助言や、世界の多くの仲間の行動がITTO、政府を揺り動かす力になった。Green Peaceの違法材問題の指摘、ラミン材取引停止、NGOsの広範囲な調査・告発等の政府への要請から違法伐採停止の激減に繋がり、やっとな世界の森林は破壊より増加が上回ったのだ。

おおきに!!

## 合法材議決大半の 48 回 ITTO 理事会に密輸王タイプ首相、突然登場！

事務局長 西岡良夫

48 回 ITTO(国際熱帯木材機関)は、[2013 - 2014 年 ITTO Action Plan]、[2013—2018 年アクション・プラン決議]、[ITTO と CBD(生物多様性条約)のコラボレーション]、[ITTO と CITES(ワシントン条約)協力推進]、[気候変動に絡む持続可能な森林経営並びにそれに関係する議決]、REDD+ に関する調査・資金配分がメイン。大半は合法材推進をどう継続するかというテーマとなった。

2000 年に ITTO 会場前で大きな横断幕を突然掲げ、会議終了間際に事務局のスティーブ氏が「事務局長らと話合いの場を作り・違法伐採問題につき ITTO も調査に検討」と約束させたところから始まり—2002 年に初めて違法伐採の議決がされ、様変わりとなる。その後、ITTO でラミン、メルバウ、マホガニー問題を取上げ CITES との絡みが強くなり、この 6 年で CITES と ITTO の協働から共同声明・行動計画に繋がり、ITTO は気候変動パリ会議から 2008 年に REDD+ が議決され、森林保全と温暖化防止の議事も始まり、最近 ITTO と CBD と連携の提案がされた。

10 年でえらい変わった。サラワク州バーニー・チャン氏が ITTO の違法伐採の議案を 2004 年に提案・採択し(なぜか?)、その後木材企業はほとんど登場しなくなる。スハルト政権取巻きの木材協議会アプキンドも 2007 年以降姿を消し、2008 年にサラワク木材協議会が「えらい変わり様」と愚痴を言いながら参加するも議決に出なかった。彼らも ITTO の変化に気付きたした、。遅い!遅くさい!

常に情報を把握しないからこんな目に合うのだ! B・チャンに連絡しておれば事態を早く気付けた。NGO が非公式もドラフト参加可能になっているのも彼らは知らない。(フリーザイラーだけ知る!)

金曜の昼過ぎの FLEGT 関連は非常に面白かった。Lacey 法を EU(2013 年 3 月実効)、アメリカ(施行済)、豪州(本 11 月決議)と同法決議への状況を発言の後、各国が合法材推進策を PR。

中国はイカサマな話で「合法ラベル実施を今年から検討・推進・実施」と言うが内容は?がつくもの—違法伐採メルバウ材の停止も無く、違法材にどう対策を取るかも無しだ。いつもの PR だ。

それに比べ、タイはゴムやアカシア等を植えて育て上げ、輸入材の詳しいチェックし、FSC 認証材、ゴム、果実木材で製品化を目指す。「FSC 材を拡大でき、違法材排除できるよう国王が指示」と言う。1960 年代まで広い森を切り尽くし、70 年代に植林を拡大せざるを得なくなる。1992 年、違法伐採で死傷者を出し、取締まりが強化された。一方、国産材料としてゴム等の木材が大きく育った—それで今年から合法材料推進強化の政策を発言した。日本は無発言だ。どこまで進捗か…?

今回 ITTO に、サラワク首相タイプが突然やってくる事が判明し、FoEJapan、JATAN が申入れ文を作成。内容はたとえば、「サラワク州が ITTO の削減勧告に合意したが、今も 20 年以上前の削減勧告 920 万 m<sup>3</sup> 以下にならず約 1 千万 m<sup>3</sup> で、合意を破り続け先住民を弾圧し、原生林を破壊し続け、違法伐採材も輸入して、日本に運び入れている。ITTO は勧告を守らせよ」と。

密輸大王・サラワク首相が初日に挨拶し、議決する案件の CITES 絡みの案件等、2013-14 年行動計画も(月曜から水曜に採択)も他案件がとんでしまう。タイプが発言終了し、フリーザイラー氏と発言してた時、FoE 三柴さん、JATAN 原田さんが文章を手渡し、文句を言った。〈×××や!!〉

## サラワク州の熱帯林保護に向けた一層の取り組みを要望します

1989～1990年に実施されたITTOのサラワク・ミッション以来、サラワク州は丸太生産量を920万m<sup>3</sup>以下に抑制することが求められているものの、その後、サラワク州の丸太生産量は、永久森林(Permanent Forest Estate)、州有地(State Land)、その他からの生産量は時に1,900万m<sup>3</sup>、最近でも1,200万m<sup>3</sup>と、明らかに総丸太生産量は、ITTOミッションルールに遵守していません。

よって、私たちはITTOに対して提言します。

1. ITTOは再びサラワク・ミッションを実施し、真の持続可能性を実現しうべく丸太生産量の上限、林業のダウンサイジングをサラワク州に指導すべきです。その上限は920万m<sup>3</sup>以下であるべきは言うまでもなく、また永久森林、州有地、その他のすべての生産量がその上限値を下回るものでなくてはなりません。

現在サラワク州では280万ha以上が植林事業地として認定されており、これは州面積の23%、州森林面積の約28%に相当します。このような大規模な二次林を含む天然林の単一、または少数樹種の人工林やオイルパームプランテーション等への転換は、世界的な共通認識のもとで取組まれている森林保全、および気候変動、温暖化防止に反する行動です。

さらにその280万haのほとんどは先住慣習地(Native Customary Rights Land)とオーバーラップしており、すでに州全土で200件を越える土地を巡る訴訟が、さらにこの開発事業によって増加することは必至です。

極端すぎる人工林転換を推進するのは、天然林資源の枯渇に直面しているからに他なりません。これは持続可能な森林経営とは言えません。

またサラワク州ではSCOREの名の下、12もの水力発電ダム建設を計画しており、すでに建設が進行しているムルムダムや、着工間近のバラムダムでは、激しく周辺住民が建設に反対しています。このダム建設は当然広大な熱帯林の減少を伴います。

今こそITTOは貴重な熱帯林を保全すべく行動しなければなりません。

もう一つの提言は日本政府に対してです。

2. 日本政府は、ITTOの最大ドナーであり、日本はサラワク合板の最大消費国であるため、そのITTOミッションの実現と、その結果が真の熱帯林保全に貢献するものとなるべく、最大限の努力をすべきです。
3. また、日本政府が有する木材調達方針を一層強化し、合法性のみならず、真の持続可能性を担保した木材のみをサラワク州から調達するよう働きかけることで、一刻も早く貴重な熱帯林減少・劣化防止に貢献すべきです。

国際環境 NGO FoE Japan  
三柴 淳一  
EMAIL: forest@foejapan.org

ウータン・森と生活を考える会  
西岡 良夫

熱帯林行動ネットワーク (JATAN)  
原田 公  
EMAIL: harada@jatan.org

## 11/14 違法伐採セミナーより～米国レーシー法と木材業界・政府 Report

11月12日東京[違法伐採対策セミナー]に次ぎ大阪で GEF と FoE Japan 主催セミナーが開催  
西岡良夫

### 【合法材推進へレーシー法は必須だ】

報告は、元アメリカ法務省環境犯罪部チーフのジョン・ウェブ氏と米国元広葉樹連盟会長のジェイミー・フレンチ氏だ。

「レーシー法とは、①海外で入手の違法に植物・植物製品(家具、紙、製材等)の取引を禁止し、②違反に対し没収・罰則を規定するもので、③原産地と種を申告する義務を負う。アメリカでも違法伐採木が多量に輸入され、それに対して2008年から木材・木製品にも罰則等を盛り込む内容で、同年5月より発効されている。

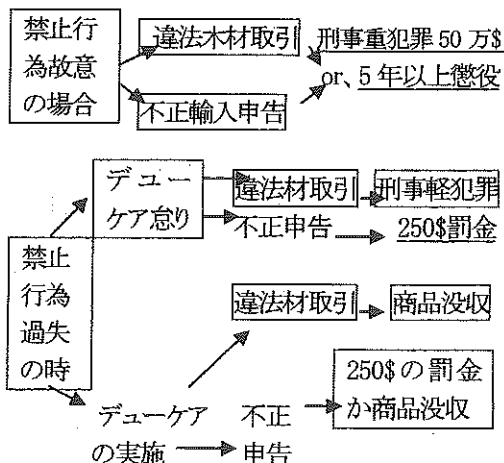
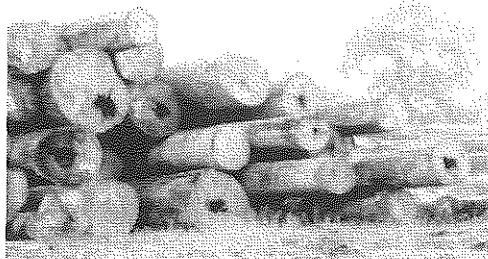
違法伐採は無計画な森林破壊、生物多様性の損失、温室効果ガスの増加、国家の収入を奪い、合法取引に損失を与え、不平等をもたらせるため、レーシー法で罰則を盛り込み、合法材利用へ支援するものとなる」とウェブ氏は経過をまず報告。

「課題を解決するため WRI(世界資源研究所)と NGO・EIA(環境調査機関)が、米国国際開発庁からの支援で2010年から森林適法同盟(FLA)を設立。FLAは目的達成のため、森林製品の供給の流れの中の関係者間で需要側の新たな木材規正法につき、透明性の向上と合法性の確認へ手法を広め、認知度を高める。[ドューケア\*]の義務を果たし違法材を市場から排除ができる。利点は

- 1)合法性に関する政策の学習、
- 2)合法性証明ツール設計、タイムリーな情報を他のメンバーに提供、
- 3)合法性を主流化するための戦略の考察、
- 4)林業・森林関係法・環境基準、サプライチェーン管理専門家、サービス業者へアクセス
- 5)連邦政府と共通の課題を建設的に解決するため政府との共同だ。」

\*[ドューケア]・結果として異なる程度の知識や責任持つ異なるカテゴリーに属すものに異なる適用がされる。さまざまな組織の提供するステップ毎のプログラムで、企業は自ら高める。(日本に無い概念)

### 東カリマンタンからサバ州への違法材(2009)



ウェブ氏は「業界にとってレーシー法は使い易くリスク・アセスメントしていたら正しいビジネスでは問題が起きない。しかし怠ると大きな損失を受け、産業界、NGOsが協力し双方が考え出し、今は業界・NGOsと信頼感が生まれた」と。

「どんな場合か、①植物等(木材含む)の盗難、②公園、保護区からの植物等の採取、③国の法律、規則で定められた木材・植物採取、④輸送への適正ロイヤルティ、税金の不払、⑤義務違反の採取、⑥丸太輸出規制品、積替違法容疑だ。⑦使用される樹種学名の改ざん、⑧原産国表示無、⑨分量と大きさ、価格報告の操作は罰せられる。詳しくは米国農務省のHPをみて」とまとめた。  
([www.aphis.usda.gov/plant\\_health/lacey\\_act/index](http://www.aphis.usda.gov/plant_health/lacey_act/index))  
問合せ(Lacey.Act.Declaration@aphis.usda.gov)

## 【違法材9%も日本に輸入、EUの倍の割合】

NGOのEIAとGlobal Witnessは指摘する。

「2006年日本はグリーン購入法改正で公的調達において合法材使用を決めた。しかし2010年の英国王室国際問題研究所の報告で、2008年に日本に輸入された木製品の9%が違法！最大の輸入国は中国で20%。日本は中国、インドネシア、マレーシアから違法材が多い。違法材の最大の輸出国がロシアで、日本も輸入時に要注意だ。

日本は民間調達に合法性につき義務が無い。自主努力であり、日本の木材製品消費の95%に合法性に関する規制がないことが大問題」と。彼らに休息無しのため、メモを話す。

「日本も今年になってやっとレーシー法の検討を進めた。ITTO理事会の席で林野庁と確認したが、政府はもう少し待ってと言う。私は政府に何時まで待たせるか、道筋を知らせたら」と。

## 【違法材を所持判明時、海外経営者も犯罪に】

ついで広葉樹連盟元会長フレンチ氏が報告。

「レーシー法は書類に基づいた法でなく、事実に基づいた法令である。林産物製紙協会、国際環境法センター、米国トラック運転組合、国家資源防衛審議会、Friends of the Earth, Green Peace, シェラ・クラブ、世界自然保護基金、Global Witness, EIAなどがレーシー法を支持した。書類の裏を見るのが重要で、自らのサプライヤーと彼らが供給する木材につき、検証し信頼を確かめることは、書類作成と同様か、それ以上に重要なことだ。

業界が[ドゥ・ケア]をどうするか検討してステップアップしていく。犯罪を追及し、真の木材を広げるためだ。①国内でも違法かの調査が必要で、チクルこと、②違法貿易は100億ドル以上の損失になることを知らせる。企業がレーシー法の適用を免れるということだけでなく、企業内部の方針、追跡手続きが重要で、手段としてバーコード、トレース・合法性システム、第三者認証制度等のステップアップで、リスク管理を高めることだ」と説明する。

会場に来た企業等から質問が出た。

「再輸出も違反の対象になる。違反をおかした木材等は没収した国が売る権利を有することに。

レーシー法に準拠する最良の方法は、違法リスクの高い国からの調達を止めることだ。別紙EIA等NGOが指摘しているように、日本はステップアップする気持ちが必要で、政府が怠っていたら、企業が率先してGreen購入法を見直すべきだ。

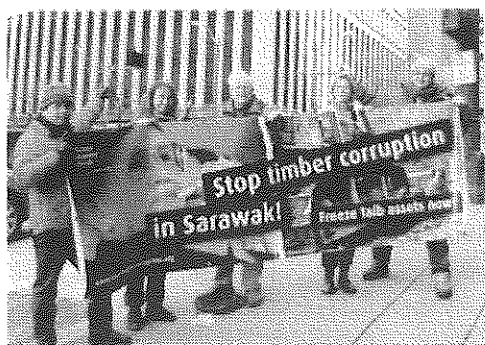
最後に示すのは危険信号の商品である。

- ①市場価格より大幅に低価格な製品、
- ②現金のみの支払い、
- ③賄賂(論外)、
- ④書類のない商品の規定価格より定価なもの、
- ⑤関税抜き価格、
- ⑥不正確で一貫性のない製品ラベル、
- ⑦無効な、疑わしい許可証や書類、
- ⑧製品の出所につき質問に答えられない、答えたがらないものの製品、
- ⑨特異な販売物、・これらに気をつける！

米国の輸入者が遡れば外国の経営者である貴方にたどり着く違法製品を所持していることが発覚すれば、犯罪に関与とみなされる。書類偽造などの違反を犯すと、その製品を米国で取引、販売することによりレーシー法違反により、あなたは責任を問われるのです」と、ウェブ氏が答える。

「起訴および没収対象になるのです。不安があれば原産地、木材のトレースを確認し、税関でも問題が無いかを確認すること」とフレンチ氏が追加を説明した。

特にサラワク材を扱い、インドネシア材で原産地確認しない企業はまだ多いのだ。ほっとけば、米国、EUのレーシー法違反となるかもしれないのだ。日本の企業体質を改善しなければと思う。



ブルーノMファンドのサラワク州首相への批判

## 【インドで生物多様性条約 COP11 開催】

10月8日、生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)がハイデラバードで開催。2020年までに「愛知目標」達成に向け、生態系保全の数値目標を盛り込んだ実行には事務局は「年10%、資金を増やす」との草案を示し決議。達成に向けて、締約国等が取組強化の合意がされた。(資料:農水省等)

## 【ウータン、世銀等にアブラヤシ開発資金停止を】

スマトラのアブラヤシ開発で昨年30名死者を出し、カリマンタンの森林破壊原因の9割がアブラヤシと「Nature誌」指摘。オランウータン餌場を含むタンジュン・プティン公園のエリアをアブラヤシ農園へ変える計画に、当会は10月世銀等へPR。同農園拡大につきRSPO(持続可能アブラヤシ開発円卓会議)認証の企業Pt.BW Plantations, Pt.BGA社の開発にRSPO本部に異議申立て。1990-2010年にアブラヤシ開発はカリマンタンで300倍増加となり、このままでCo2排出量が4倍、森は1/3に減少と。(FNPFから各データ、10/8 Mongabay.com.)

## 【60NGOs、APP社への投資金ボイコットを要請】

NGO 60団体はインドネシアで物議のAPP(アジアパルプ&ペーパー)社の投資家に対し、10月投資中止を求める公開書簡を送る。12カ国の銀行・金融機関に送られ、「同国に関わる製紙業界へいかなる投資に対しシナルマス・グループ関連企業とAPP投資審査に細心の注意を」と求めた。同社のアフリカ・リベリアのシノエ郡を拠点の孫会社ゴールデン・ベロリウムが開発中の3.3万haの土地運営に住民から苦情が上っている。(資料:Jakarta Post等)

## 【林野庁、国産材利用促進にポイント制度導入へ】

林野庁は国産材使用住宅を購入時に商品と交換のポイント制度を導入。来年度概算要求に55億円を盛り込み、協議会が運営し国が補助金を出す。協議会が定める「地域材」を新築・補修・内装も対象に50%使用方針。「森林吸収源対策のための税制」で地球温暖化防止対策にCO2を吸収の森林整備・木材利用推進へ新環境税は10月1日から。(林野庁)

## 【11月、豪州も違法材対策にレーシー法の採択】

11月19日、オーストラリアでも米国、EUに次ぎ違法材排除にレーシー法を同国会で可決。5年を費やしたこの法案は輸入業者に罰金・懲役・差し押さえを課し、海外からの木材・木材製品に対して原産地証明等が必須に。(10/19 Reuter, ITTO 会議)

## 【違法伐採で年何百億ドルの損失】

Voice of America は10月にグリーン・カーボン/ブラック・トレードと呼ばれる報告で毎年300億ドルから1000億ドルの違法材貿易で損失があると。その多くはアマゾン川流域、東南アジア、中央アフリカの主要な伐採国に集中。UNEPはこの森林伐採がCo2排出原因の約2割を占め、船舶、航空、陸上運輸の排出量より50%も多いと。(フェアウッド News)

## 【中国、3年後に約2億m3木材不足へ】

10月22日「中国木業情報網」は3年後の木材不足量は1億8200万m3と発表。国内木材資源の減少で、中国の供給量の不足が増加。予測では2009年に1億700万m3の木材供給不足量は2015年までに1億8200万m3に急増と。解決へ木材節約・代用強化や総合利用率の向上以外に有効な策は輸入量を増やすことと。輸入量は1500万m3を超え、ロシアから800万m3強を輸入。また違法貿易が東南アジア・ロシア・アフリカからか? (FiarWoodNews)

## 【コロンビア共有地保全に世界初 REDD 認証取得】

中米コロンビアで森林保全計画は、森林カーボン・クレジットで新境地を開拓。先住民のコミュニティとコロンビア企業間のパートナーシップで運用の計画は、コロンビアVCS(Verified Carbon Standard)に基づき認証の最初のREDD計画に。計画は共有地の世界初のREDD認証だ。(11/16 Mongabay.com)

## 【ディズニー社、責任ある紙の調達と使用方針に】

ディズニーは、日常業務及び消費者向けの製品や使用紙のガイドラインとなる新たな調達・利用方針を発表。同社は責任ある森林経営・保全を継続にし、二段階にわたり実行と。(資料:フェアウッド News)





《「早春の雑木林」西三子》

☞ 拝啓 猪俣 栄一さま ☞

あちらの世界に逝かれてから、いかがお過ごしでしょうか。そちらでもジャスミンを育てて、大好きなジャスミン茶を飲んでおられることでしょう。ますます毒舌に磨きがかかってませんか？(笑)

猪俣さんは、物事を鋭い視線で観て、スパッと単刀直入に物言うごまかしのない生き方をされて、凄いなと思います。ぶれる事のない方でした。

今までに頂いたお年賀状の写真を改めて見ますと、猪俣さんの自然への想いが伝わってきます。

『昨年、ウータン集会で楽しい半日を過ごしました。』と、初めてお年賀状を頂いたのが、13年前でしたね。

その頃、独自の森林論をウータン会報にて展開しておられ、猪俣さんを講師に迎えた勉強会で、大した知識もない私の生意気な質問にも、丁寧に答えて下さり、西三子山の雑木林の写真が素敵な年賀状を頂きました。その後何度か、徳島の貴重な植物の自生地にご案内下さいました。どこへいつ行けばどんなものに出会えるのか、ほんとはよくご存じで、一体どれだけの情報が頭の中に整理されて収まっているのか…、ただただ私は感心するばかりでした。

ある年、喪中が過ぎが届いた事がありましたね。そこには、『3月に長女佐利が、7月には次女佐由利が永眠しました』とあり、その訃報に驚きながらも、よ〜く考えてみると、そういえば…老犬達の具合が良くないとおっしゃってたのを思い出し、これはワンちゃん姉妹の事だと気がつきました。私もうちの猫が亡くなったら、きっと同じ事をするやろなあって思ったものです。生き物を人間と対等に考えられる優しさと、ちょっとお茶目な一面もお持ちでした。

お墓参りをご案内下さった奥様からは、ピアノを弾く猪俣さんの思い出や、奥さまにはレディーファーストだった事など伺い、猪俣さんとピアノの取り合わせが意外でしたが、もっと早くに知っていれば、ピアノを弾いてもらう機会を作ったのにと、残念です。

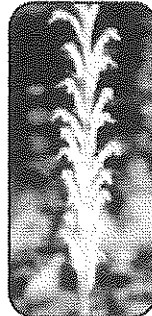
私がそちらへ逝った時には、ピアノを弾いて出迎えて下さいね！

今頃になって…ですが、これまで頂いたお年賀状の写真の植物を調べてみました。



《タヌキノシヨクダイ》

絶滅危惧種1A：光合成を行わず、落ち葉等が微生物により分解された物を栄養とする腐生植物。夏に湿った環境下で咲く、白く半透明な花をタヌキの燭台に見立てた。



《イイヌマムカゴ》

絶滅危惧種1B：名前から想像つかないが、ラン科。江戸末期の医師・飯沼悠斉にちなむ。白く穂の様にみえる物が花で、山地の木陰に自生。高さ20～40cmの多年草。7～8月に咲く。

最後まで再燃したダム計画や河川問題を心配しておられた猪俣さんでした。

この全国的にも珍しい植物たちが、これからもずっと花を咲かせてくれる事を願っています。まだまだおそわる事が沢山あったのに、残念です。ありがとうございました、猪俣さん！合掌。

【追悼・猪俣栄一さん】

2012, 12, 9

いのまたさま、

お疲れ様でした。

長い間、ウータンの御意見、見番として見守っていたことに、ありがとうございます。ごさいました。

熱帯材貿易にたずさわった実地の経験から、貴重なアドバイスを沢山いただきました。

「工事用のコンクリートパネル(型枠)に使用される合板に熱帯材を使用しなければ、サラワク先住民の森を守れる」という言葉から、「工事に熱帯材を使わないで」という「自治体キャンペーン」は始まりましたね。

日本の自然を守ろうと、激しい論陣をはり、「木頭村をダムに沈めまい」と闘う村長を外からバックアップし、色々話をまかせていただきました。(今でも私は、ゆず等を村おしをする木頭村の美味しい「おからクッキー」や「ゆずマズレ」のファンです!)

アステアだったかな? 何かのイベントで、奈良の春日原生林と一緒に歩きながら、「野生の鹿と街の鹿の糞は形がちがう」という面白い話をまかせていただいた日、ああ、本当に自然が好きなんやなーと思えました。

「ウータン」に連載していただいた「真・日本林業論」を本にしようという話があったのに、実現できなくて、本当にごめんねさい。からかりされたでしょうね。

「ウータン」のバックナンバーでしか読めないう論文とあってしまいました。

口は悪いが(すみません!) 温かい、アツい心の持ち主でした。

これからウータンの活動を見守ってくださいね。

さようなら、そして ありがとうございます。ごさいました。

ゆかり お休みください。

(あんたなんか頼りないから、休んでられんしやないか、と言われりかな...?)

井下祥子

## <会計より>

井下祥子

希望の村の苗木づくりのためのカンパは引き続き募集しております。

未使用切手もともによろしく願いたします。

.....

## <会費・カンパ等をいただいた方> (敬称略) (2012.10.1 ~2012.12.9)

NGO自敬寺・服部隆志 関目実 田村節子 (希望の苗づくりに)

日高京子 藤村はるえ 細川弘明 M. M

「地球愛祭り奈良実行委員会」(代表・前裕子)より5万円が寄付されました。

国内の熱帯材使用削減を中心にしていたところに比べ、インドネシアでの活動や、国際会議での働きかけなども増えました。申請した基金ではお金の出ない活動も。しかし必要なことは、「予算がつかないからやめた」というわけにはいきません。スタッフの自己負担にも限界があります。今後も皆様のご支援をよろしく願いたします。

## <おたよりから>

\*アユースと何か一緒に考える場ができたらいいですね! 服部隆志

本当に、いろいろやっているグループがゆるくつながって、さざなみのように少しずつ変えていけたら、と思います。

皆様、いつも、お気持ちありがとうございます。

寒さの中、風邪、インフルエンザなどお気をつけください。

口をゆすぐ(これ大事、と看護師さん)うがい、手洗いはもちろん、のどや足首の冷えにもご用心! ネットではレグウォーマーが売り切れとか。

私はネパール支援のNPOで、カラフルな現地女性の手編みを手入。暖かです。

夜は、首にも頭にも手ぬぐいを巻き、マスク着用。泥棒も真っ青な寝姿で風邪をやりすごしています(^O^Y よいお年を!!

# HUTAN ACTION SCHEDULE

2013 NEW YEAR

ONE · WORLD · FESTIVAL  
2/3, 4 ワン・ワールド・フェスティバル!  
① ②

【時】 10:00 am ~ 4:30 pm

【場】 国際交流センター (上本町8丁目)

HUTAN  
2/11 (祝) ウータン総会・25周年記念

【時】 1:30 pm ~ 4:30 pm

【場】 大阪市中之島中央公会堂 2F 6・7号室 (地下鉄, 京阪「淀屋橋駅」  
スグ)

【ゲスト】 古澤広祐さん (ジャワレス代表、国学院教官)

大西 裕子さん (弁護士、四万十法律事務所)

\* 講演報告 + 世代交替体制への総会



## ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

「関西市民連合」気付

Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

【一部】300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。